

イザガー(イズガー)

水が豊富な  
降り井

390

いり え わん いま

# 入江湾、今むかし

嘉手刈公民館

秋を祭内めたあと、ここで  
なますのくうを踊ったとされる

ブンヤー品瓜

かてかり  
嘉手刈

なかま むら すいてい  
仲間邑(推定)

かてかり  
嘉手刈

中御嶽  
竜宮御嶽

ウブ御嶽

みすどう  
水堂御嶽

クバカ城跡

津波石

すがま  
洲鎌

このあたりは  
湿地だった

津波町の  
神ま

あざ  
字

ぎょうせいしゅうらく  
行政集落

しょうしゅうらく  
小集落

けんどうやーぼるせん  
一県道屋原線

197

↑  
入江出身で琉球  
政府の副首相にまで  
なつた与儀達敏が  
「県道」に昇格させた

「魚垣」  
潮の流れ  
を利用した  
漁法

茶色好きの  
釣り  
ポイント  
だった

ここから手こぎの  
舟を出していた

民謡

## なますのくう

入江集落にあつたとする  
塩川邑、仲間邑が祭祥と  
され、人頭税時代に役人  
を喜ばせるために踊ったと  
伝わる。

祭祥の地

石川排水

同の田  
ツカサダー

うるかまざり  
砂川間切旧時代に、  
宮国村の祭記用の米を  
つくるために王府が与えた  
土地。宮国の飛び地。

スガコ?ニシタコ??

子は「米」「ニ」と読み  
スガ子=スガ=ニ  
ニシタ子=ニシタ+ネ  
(ニシタ=ニ)

ヒナジと同じで  
「音」にあとから漢字  
があてられている

なますには  
何が合うかな  
何に  
置く?

「なます」  
魚と赤しこの  
あえもの



貝の皿が  
いいネ!  
白い箸が  
きれいよ!

料理ど  
もこのまじりが歌われてる ↑



カチツサ

舟で漕ぎ出すと舟底に砂が  
ついたように音が出た。  
天然の海ぶどうがこすれ音  
だった。

よなは  
与那覇

カチチャ原

**パチャガ崎と人頭税**

宮古の人々を苦しめた人頭税。その廃止運動の密議の場がパチャガ崎。入江の奥まった構造が良かった？!

人頭税廃止運動ゆかりの地 城間正安住居跡

一地 ← 人岩  
もともとの地名の意味は「人岩」。方言に違字があてられていた

足の下ぜんぶ海がわが！  
泳ぎながら食べた



塩川邑(推定)

このあたりで上存をさらしていた?

人頭税廃止運動ゆかりの地 碑

人頭税廃止運動ゆかりの地 川満亀吉顕彰碑

干草がサミエ七... 何ぞもとれた

パチャガ崎 唐船岩

展望台

棚根漁港

単行線昭和25年頃まで橋があった。

唐船岩

元橋

潮の干満で海水が出たり入ったりを繰り返す

ニシクナ子

北相根

ハイツナ子

南相根

外崎御嶽

旧道のりば

このあたりはよくタカ(サシバ)をとっていた

津波が来た時、相根のように見えたから

1912(大正1)年 宮古-石垣間に電信海底ケーブルを布設。約160km

イン=海 サ=3日

相根のインザツ 害虫を海に流し五穀豊穡を祈るムスミロウと、航海安全などを祈願し集落総出で行く行事

すむ 何か大会+政ど盛りあがる!

葉茶 とうしんじー パチャガ崎と唐船岩

そのましかくバカ城を通って唐と密貿易が行われていた!? 葉茶が崎:茶葉を扱っていた所 唐船岩:唐の船を係留した岩



## 川満亀吉と人頭税廃止運動

めいじ ころ かでかりしゅうらく  
 明治の頃、嘉手苅集落に川満亀吉  
 ひと おさな ころ さい  
 という人がいました。幼い頃から才  
 のう た いえ ていまい めんどう  
 能に長け、家のことや弟妹の面倒も  
 み もの むらしゅう ひょう  
 よく見るしっかり者だと村中から評  
 はん あつ さい わか  
 判を集め、23歳という若さにして  
 むら そうだい ばってき  
 嘉手苅村の総代に抜擢されました。

とうじ くる  
 当時の宮古は、人頭税に苦しめら  
 みぶん さ はげ のうみん  
 れ、身分の差が激しく、農民は税を  
 おさ ね ま お はたら  
 納めるために、寝る間も惜しんで働  
 じだい  
 くような時代でした。

なか なか おきなわ こくどう  
 そんな中、亀吉は沖縄から黒糖づ  
 ひろ もくてき き せいとうぎし  
 くりを広める目的で来た製糖技師の  
 くすくませいあん で あ  
 城間正安と出会います。ところが当  
 ひとびと  
 時の人々は税として納められないサ  
 かんしん ふきゅう  
 トウキビに関心がなく、普及がなか  
 すず  
 なか進みませんでした。そこで正安  
 す  
 は技師をやめ、亀吉の住む嘉手苅に  
 うつ す みずか つく はじ  
 移り住んで自らサトウキビ作りを始  
 はか じゅうきよ  
 めます。亀吉の計らいで正安は住居  
 とち え つま わか  
 や土地を得て、妻まで迎えることが  
 ゆうじょう ふか  
 でき、ふたりは友情を深めました。

ひころ  
 そんなふたりは日頃から人頭税の  
 せいど ぎもん も ひび  
 制度に疑問を持っており、日々、人  
 なや  
 頭税をなんとかできないかと悩んで  
 いました。

しんや とお いらぶじま  
 そこで、深夜に遠くは伊良部島や  
 いけま なんと で む かくち  
 池間島まで何度も出向き、各地の総  
 きょうりょく ねが  
 代に人頭税廃止の協力をお願いしま  
 かい ひとめ しの  
 した。その甲斐あって人目を忍んで  
 いらえわん ざき めい  
 入江湾のパチャガ崎に27名の総代  
 あつ にほんせいふ ちんじょう  
 が集まり、日本政府に陳情すること  
 まんじょういっち けつぎ  
 が満場一致で決議されました。

ちようどその頃、正安の製糖技師  
 ゆうじん しょうかい しんじゅうしよく  
 の友人の紹介で、真珠養殖のために  
 にいがた き なかむらじゅうさく で あ  
 新潟から来ていた中村十作と出会い  
 げんじょう し とう  
 ます。島の現状を知った十作は、東  
 きょう じじょう くわ じんみやく  
 京の事情に詳しく、人脈もあること  
 あんないやく か  
 から東京の案内役を買って出ます。

さくせん かた いっごう せい  
 こうして作戦を固めた一行は、請  
 がん しゅっぱつ  
 願のために東京へ出発しました。東  
 京へは十作と正安、農民代表として  
 にしごとかま たいら まうし おもむ  
 西里蒲と平良真牛が赴き、亀吉は島  
 る すばんやく にな  
 で留守番役を担いました。

む し  
 4人が請願に向かったことを知っ  
 やくにん のうみん  
 た役人たちは、正安が農民をたぶら  
 へ  
 かして税を減らそうとしていると、  
 て じゃま  
 あの手この手で邪魔をしてみました  
 ちゅうしん  
 た。しかし留守番役の亀吉を中心と  
 だんけつ じゅうみん  
 した総代たちは、団結して住民たち  
 きも こぶ つづ  
 の気持ちを鼓舞し続けました。

その後、十作は何度も東京へ渡り、陳情し、マスコミや政界の人々を巻き込んで、みごとと帝国議会の可決を勝ち取り、1903年、266年に渡る悪税は幕を閉じました。

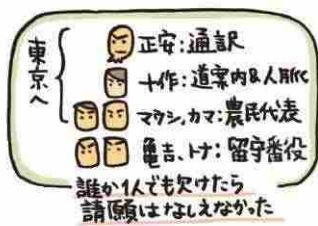
人頭税廃止には、多くの人の努力がありました。集落内に川満亀吉を

称える顕彰碑が建てられ、当時秘密の会合を繰り返したとされるパチャガ崎、さらに城間正安の住居跡といわれる場所にも、人頭税廃止に因んだ記念碑を建立しました。

参考 『川満亀吉と人頭税 人頭税廃止運動 百周年記念』(1993)川満家親族会

### 人頭税年表

- 1609(慶長14) 薩摩侵攻。琉球王府、薩摩の支配下に
- 1637(寛永14) 宮古・八重山で人頭税が始まる
- 1659(万治2) 年貢の総額を毎年一定額にする
- 1879(明治12) 廃藩置県。琉球は沖縄県に
- 1884(明治17) 城間正安、製糖技師として那覇から宮古へ赴任
- 1892(明治25) 中村十作、真珠養殖事業で宮古へ
- 1893(明治26) 人頭税廃止請願のため、代表4人が上京
- 1895(明治28) 請願書が帝国議会で可決
- 1903(明治36) 人頭税廃止
- 1982(昭和57) 川満亀吉の顕彰碑建立



川満亀吉顕彰碑



人頭税廃止運動ゆかりの地 城間正安住居跡



人頭税廃止運動ゆかりの地 パチャガ崎



じょう せき

# クバカ城跡



いり え わん ちか い ち しき ち かこ の づら いし  
入江湾近くに位置するクバカ城跡は、敷地を囲む野面の石  
づ のこ きちょう し せき よう せい きゆう き  
積みが残される貴重な史跡です。『雍正旧記』(1727)には、

「長さ31間(56.4m)横25間(45.5m)、門は末方(南西)に向か  
う」とあり、現存の石積みとほぼ一致します。また、城主は  
あ ず よ きょうりょくむ そう じん ぶつ  
クバカ按司と呼ばれる強力無双の人物  
つた きた がわ  
であったと伝えられます。城跡北側には  
く ば か がー じょうが いみ なみ  
久場川井泉があり、城外南側に按司  
まつ う たき  
を祀ったクバカ御嶽があります。



あず でんせつ  
クバカ按司のおもしろ伝説

きょだい  
巨大シャコガイ



クバカ按司の剛腕は大変有名で、遠く八重山まで知られていました。ある日、八重山の力自慢が宮古まで決闘にやってきました。按司は「暑いから水浴びをしよう」と誘い、大シャコ貝で水を汲み、豪快に浴びました。八重山の力自慢も真似てみましたが、シャコ貝を持ち上げることすらできず、とうとう決闘を諦めて帰っていきました。



おお たけ  
大きな竹

ある時、嘉手苳と川満の按司がクバカ按司を訪ねてきました。クバカ按司はおもむろに生えていた大きな竹を引き抜き、手で割いて便所へ持っていきました。それでお尻を拭くというのです。川満の按司も負けじと竹を抜こうとしますが、結局抜くことはできませんでした。



ウプガムもち

クバカ按司と大変仲の良い喜佐真按司は、クバカ按司が粟とウプガム

(タカキビ)で作ったウプガムもちを食べているのを知り、「どんなにひもじくてもそんなまずいものは食べない」と言い切ります。そこでクバカ按司は喜佐真按司を魚釣りに誘い、昼食もとらずに釣りをしました。喜佐真按司はお腹が減ってたまりませんが、クバカ按司は「ウプガムもちしかない」とひとり頬張りまです。空腹に負けた喜佐真按司は、結局ウプガムもちを分けてもらい「美味しいなあ！」とつい口走ってしまいました。

うつく  
美しいうんこ



ある日、喜佐真按司と「どっちが綺麗なうんこを出せるか」勝負をすることに。喜佐真按司は旨いものを食べれば良いうんこが出るはずとご馳走ばかり食べて過ぎ、クバカ按司はサツマイモを食べてその日に備えました。いよいよ勝負の日。クバカ按司は美しい渦巻状のうんこでしたが、喜佐真按司はご馳走の食べ過ぎで下痢。「何をやってもあんたには勝てない」と笑って言いました。

参考：宮古島記事(1752)、宮古お嶽集(1980)、下地町の文化財(2000)



みやこ ちかくいちば  
宮古家畜市場

ひらねしつ  
←平泉市南

のぼるこし  
野原越

みやこ じふしでんとう  
宮古島市伝統  
工芸品センター P51

みやこ じょうろ  
宮古上布 P48

みやこ じふし  
金剛善寺

のぼるたけ たまし  
野原岳の霊石 P43

いひのたき  
西御嶽

こうくうじえいたい  
航空自衛隊  
みやこじまふかごんさち  
宮古島分屯基地

ほへいだいさんれんざいせんぼつしや いれいの  
歩兵第三聯隊戦没者慰霊碑

のぼる  
野原のマストリヤー P44

のぼるこうみんかん  
野原公民館

ツルギミ(ザウカニ)  
常緑のつる性木  
たべられる  
葉や木など  
は、魚鱗片  
おおわれている  
採っておい  
何を意味  
するかな?

アリランの碑

のぼる  
野原コミュニティ公園

サレカケミカン  
常緑つる性低木

たかさわよしと か の  
高澤義人歌碑

戦死お  
食えや  
マラリアで  
苦しんだ  
「補充兵われも飢えつつ  
餓死兵の骸焼きし宮古よ  
八月は地獄」

ムスルミ

トガに注意!

※集落内の拝所に許可なく立ち入ることは禁じられています







# 上野野原コース



78

野原岳一帯は  
日本兵の掘った壕が  
いくつもある

コース全長約 4 km  
所要時間: 徒歩 1.5 時間 車 30 分

-  徒歩コース
-  大嶽城跡 指定範囲
-  大嶽公園の植物群落 指定範囲
-  サティパライの順路

クスノキ(ツガガ)

201

中隊跡付近は  
古い石畳が  
残る

大嶽公園の植物群落 P42

中御嶽

大嶽城址公園

伊良部島 瀬間島  
が見え、地形も  
観察できる

大嶽城跡 P40

大御嶽

START

246

野原のサティパライ P46

190



ナガミボクジョウシ  
常緑低木  
石灰岩の多い木でよく見かける



ヤブニッケイ  
5~10mの常緑高木  
葉をもみと  
かすかに  
シヤモンの香り

葉前はカカオ豆の  
イロ用品にされた

ハイビスカスは  
色々種類が  
たくさん!



うぶ たき じょう せき

# 大嶽城跡



大嶽城跡は14世紀中頃の城跡で、宮古島のほぼ中央に位置する野原岳の丘陵上にあります。『雍正旧記』(1727)には「城長58間(104.4m)、54間(97.2m)、門末の方(南西)に向かう」と記されています。戦後の米軍施設建設などを経て、残っていた石積みも現在はなくなっています。城跡周辺には、按司が掘ったとされるふたつの井戸や、按司の3人の息子を祀る御嶽が残されています。



## 農業神になった男 ピギタリ



うぶたきむら じょうしゅ あず  
大嶽村の城主である大嶽按司  
は、とても賢く武力に長け、農耕  
ほくちく ひろ むらびと した  
と牧畜を広め、村人からとても慕

われていました。按司には3人の  
むすこ じなんちる あず さんなん  
息子がおり、次男知呂按司と三男  
かにまるかに あず ちち に ぶんぶ  
金丸金按司は、父に似て文武に長  
わかも の ちようなん  
けた若者でしたが、長男のピギタ  
あらせ きら この  
リは争いごとを嫌い、農業を好む  
せいかく  
性格でした。

ある日、父大嶽按司が突然世を  
さ のこ しろ たく  
去り、遺された城は息子たちに託  
されませんが、ピギタリは城を出て  
のうみん く  
農民として暮らしていくことにし  
ました。

そんな折、当時島中を荒らし  
まわ よな は いちだん  
回っていた与那覇ばらの一団が、  
突然城を攻撃してきました。弟た  
ちの ぼるだけ さん  
ちはすぐさま村人を野原嶽の山  
ちよう ひなん  
頂、カシフガーラに避難させ、父  
の遺した策に従い、次男は城の東  
もん にし まも  
の門を、三男は西の門を守りまし  
たが、みな力尽きて殺されてしま  
ちからつ ころ  
いました。そしてカシフガーラに  
かく じゅうみん よる みず もと  
隠れていた住民も、夜に水を求め

い ど おんな こ  
て井戸にやってきた女の子のあと  
をつけられ、みな殺しにされてし  
ころ  
まいました。

そんな惨劇の中、ひとりだけ生  
さんげき なか い  
き残った男がいました。男は山伝  
のこ やまづた  
い に 走り、昼は洞窟で眠り、夜に  
はし ひる どうくつ ねむ  
食を漁り、集落から東に2kmほど  
しよく あさ しゅうらく ひがし  
離れたウプアラス原に落ち着きま  
はな ばり お つ  
した。

その後、大嶽村の惨事を哀れに  
さんじ あわ  
おも となり しんざと しゅちよう たす  
思っていた隣の新里村の首長の助  
まごむすめ  
けもあって、男は首長の孫娘ミガ  
ふうふ むらだ  
マラと夫婦になって村立てをし、  
なん じょ めく さい てんじゆ  
7男7女に恵まれ、100歳の天寿  
まっと つた  
を全うしたと伝えられています。

みやこじましょみんし  
参考『富古島庶民史』(1957)

野原集落では、この男をピギタリだ  
とも伝えています。彼が以前住んでい  
かれ いぜんす  
た屋敷跡には大嶽が建てられ、ピギ  
やしきあと うぶうたき た  
タリ世又主と称した農業神が祀られて  
ゆうぬす しょう まつ  
います。また城跡の東側には次男知呂  
じようせき がわ  
按司を祀った中嶽、西側には三男金  
なか  
丸金按司を祀った西嶽があります。



うぶ たき こう えん しやく ぶつ ぐん らく

# 大嶽公園の植物群落



この植物群落は、大嶽城址公園とその東側斜面に位置して  
います。一定方向から吹き付ける風の影響で植物が高く生育  
しづらい環境にあり、海岸にある崖でよく見られる風衝景観  
が広がります。群落内では、ヤブニッケイ、バクチノキ、ナ  
ンテンカズラをはじめ、様々な植物が  
生育しています。また、数多くの陸産  
貝類の固有種や貴重種が確認されてい  
ます。



の ばる だけ たま いし

# 野原岳の靈石



上野野原コース

この靈石は、大嶽按司が城の守護神として造ったと伝わりま  
す。沖縄には石に靈が宿るといふ信仰があり、地元ではここを  
「タマザラ御嶽」と呼びます。もともと城があったとされる山  
頂にありましたが、戦後、米軍施設建設時に現在の場所に移さ  
れました。底面の直径134cm、上面の  
直径110cm、高さ135cmで、硬い琉  
球石灰岩を美しい円錐台に仕上げてお  
り、当時の石工技術を見て取れます。



# 野原のマスター



野原のマスターは、旧暦8月15日に行われる豊年祭です。マスターの起源については不明ですが、当時の過酷な人頭税を完納できた喜びや、翌年の豊年を予祝する気持ちなど、様々な想いから創りだされたという説があります。

月明かりの中、威勢よい掛け声にあわせ棒を振る男性の後ろを、ゆっくり厳粛に歌い踊る女性が続く様子は、宮古諸島の芸能の中でも独特です。





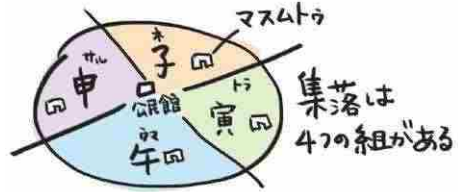
まんげつした  
**満月の下のマストリヤー**

きゅうれき じゅうごや い  
旧暦8月15日は「十五夜」と言わ  
れ、中秋の名月にあたります。月明  
かりの下、4つのマスムトゥ\*ごとに  
公民館に集まり、マストリヤーが始  
まります。

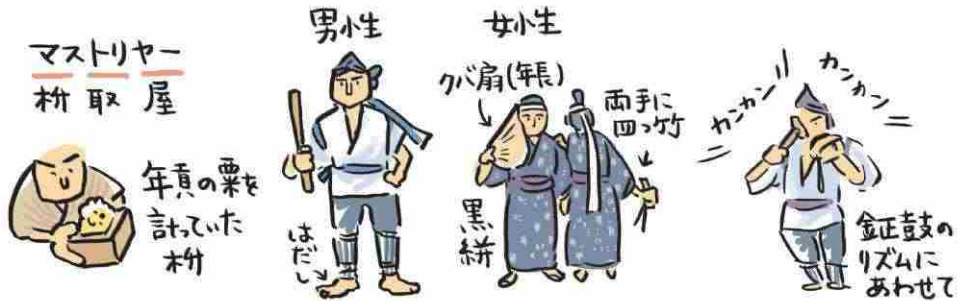
\*マスムトゥ：貢租を集めていた場所

7:00 うち御嶽と公民館に  
ツカサがお供えとお祈り  
夕方 各家庭でお月見

20:30頃 各マスムトゥ(杵元)で宴会



21:30頃 公民館で踊り宴会



女小生の  
ゆったりとした  
歌と踊りがあとに続く

棒を打ち鳴らす

サッサー! エイヤ!

威勢のよい  
かけ声と共に



# 宮古島のパーントゥのぼる（野原のサティパライ）

ユネスコ無形文化遺産

2018(平成30)年11月29日登録

## 来訪神：仮面・仮装の神々



野原のサティパライは、旧暦12月の最後の丑の日に行われ  
 る厄祓いの祭祀です。サティは里、パライは祓いで「里の厄  
 祓い」を意味します。女性と子どもたちのみの行事で、夕方  
 になるとパーントゥの面を付けた少年を先頭にして集落を練  
 り歩き、悪霊を追い祓います。

野原のサティパライは、島尻のパー  
 ントゥとともに2018(平成30)年、ユネ  
 スコ無形文化遺産に登録されました。





さとばら  
サティパライ=里祓い

パートウとは、怪物や化けものあらわごとばさいしとう物を表す言葉ですが、祭祀に登じょう場することで、厄祓いと豊穰をよしゆくらいほうしん予祝する来訪神になります。  
のばるめん  
野原のパートウの面がいつ、どのようにもたらされたかは、はっきりしていません。



サティパライ  
里祓い  
集落



サニバ  
西南=甲方=去る  
集落西のムスルニ  
と草木を捨て、終了。

マニの葉

トゲヤ 刃のように見える

ドンドン  
ゴォー  
ホーイ!  
シヤツ



みや こ じょう ふ

# 宮古上布



写真：宮古上布保持団体

宮古上布は苧麻を原料とする麻織物です。手績みによる糸  
つくり、拵括り、染め、織り、砧打ち(仕上げ加工)など、それ  
ぞれの工程を分業制で行い、すべて手作業です。16世紀末に  
洲鎌与人を務めた真栄の妻の稲石が、織り上げた綾錆布を王  
府に献上したことが宮古上布の始まりとされます。1637(寛  
永14)年に始まった人頭税で貢納布に定められ、技術が発達し  
ていきました。1903(明治36)年、人頭税廃止後の自由生産に  
より島の主産業として発展し、今に継承されています。

ちよ ま いと て う

# 苧麻糸手績み



写真：宮古苧麻績み保存会

イラクサ科の苧麻を原料とする苧麻糸は、国の重要無形文化財である宮古上布の材料です。植物の繊維を撚り繫いで糸を作ることを「績む」と言い、苧麻糸手績みは苧麻の繊維を績む手技です。苧麻刈り、苧麻裂き、苧麻績み、撚り掛け、経木掛けの5つの工程からなり、苧麻の茎の表皮から繊維を取って細く裂き、手で績んで長い糸を作ります。この手技は宮古上布の保存と伝承に欠かせない技術であり、宮古苧麻績み保存会による後継者育成が取り組まれています。

おりもの

# 織物まめちしき

じゅうようむけいぶんかざい  
重要無形文化財に指定  
されている織物  
( )内は使用する素材

おぢ やちぢみ えちごじょうふ  
小千谷縮・越後上布  
新潟県(苧麻)

小千谷縮・越後上布は福島県昭和村の  
手績み糸を使用

ゆうきつむぎ  
結城紬  
茨城県・栃木県(真綿)

くるめかずり  
久留米紬  
福岡県(木綿)

くめじまつむぎ  
久米島紬  
久米島(真綿)

みやこじょうふ  
宮古上布  
宮古島(苧麻)

きじよか ばしょうふ  
喜如嘉の芭蕉布  
沖縄島(糸芭蕉)

- 上布(じょうふ) : 薄地で最上級の麻織物
- 紬(つむぎ) : 紬糸などを使った  
先染めの織物・生地
- 拵(むすり) : 拵糸で柄を織り出す技法
- 擦(す) : ねじりあわせること  
(つなぐ/強度を出す)

糸の作り方がちがう!

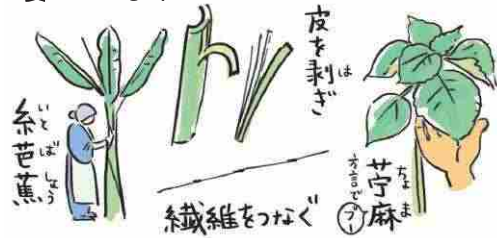
## 紡ぐ

めん まゆ せん い む  
綿や繭から繊維を引きだす

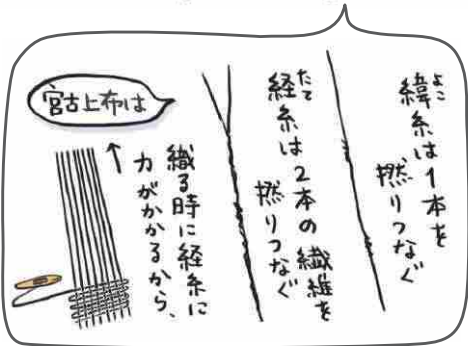


## 績む

あさ ぼしょうふ しょくふせんい ほそ きんいつ  
麻や芭蕉布などの植物繊維を細く均一に  
裂いてつなぐ



おとなよう わふくいちちやく きじ  
一反(たん) : 大人用の和服一着分の生地  
幅約36cm、長さ約12m





# 重要無形文化財 宮古上布のできるまで

この一連の流れをひとつの島で完結しているところは他にない

## 1 糸つくり



## 2 デザイン



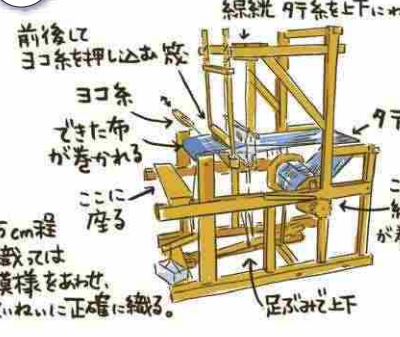
## 3 染め



## 4 織りの準備



## 5 織り



## 6 仕上げ



### みやこじまし 伝統工芸センター

センターでは宮古上布や道具、糸の展示などを通し、歴史や製作工程を学ぶことができます。また、製作工程の見学や体験教室、研修生の育成なども行っており、見て触れて学べる施設です。宮古上布、宮古織、宮古麻織の販売も行っています。

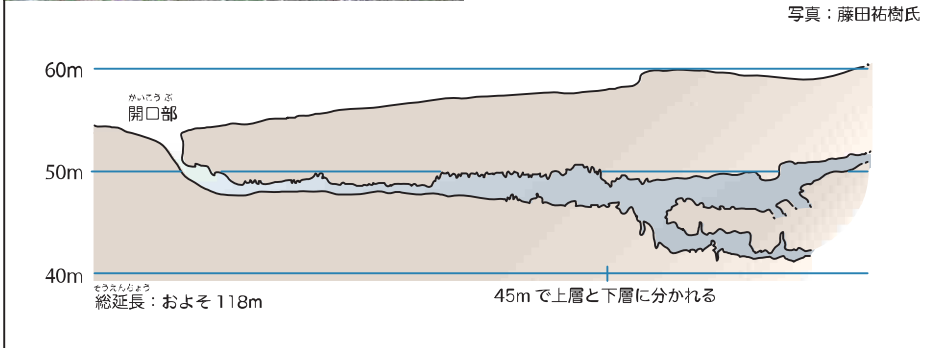


い せ き

# ピンザアブ遺跡



写真：藤田祐樹氏

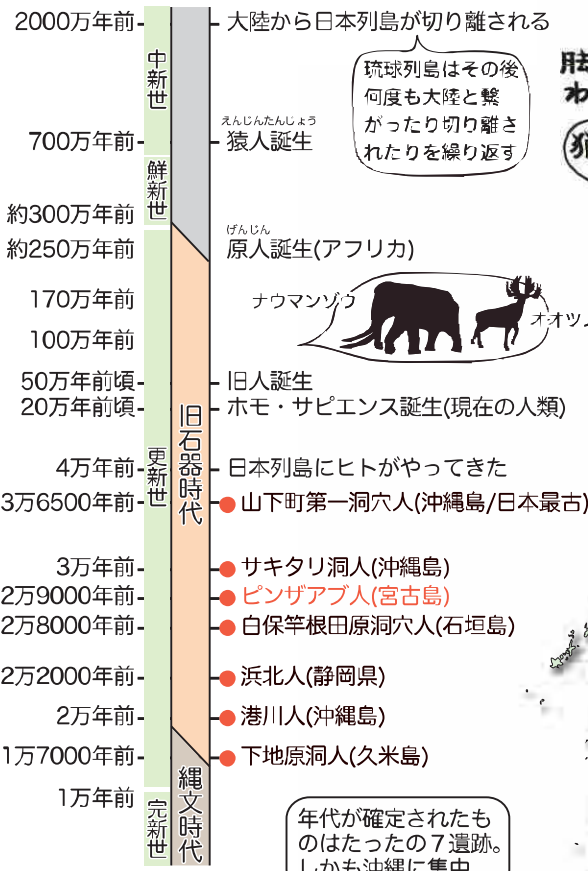


ピンザアブは上野字野原に位置する洞窟で、宮古の島の成り立ちを紐解く重要な遺跡です。過去の調査でおよそ2万9000年前の人骨や、約40種類の動物の化石が発見されています。発見された人骨は頭骨に厚みがあり、やや原始的な特徴があるとされます。動物の化石は、ミヤコノロジカやハタネズミ、鳥類など、宮古島にのみ発見される種が多く見つかっています。



にほん はっけん きゅうせつ きじん こつ  
**日本で発見された旧石器人骨**

せつかいがん おお りゅうきゅうれつとう いま まん まえ はじ  
 石灰岩が多い琉球列島には、今から4万年前に初めて  
 にほん わた じんこつ のこ  
 日本列島に渡ってきた旧石器人の人骨がよく残ってお  
 り、沖縄南部で発見された港川人はその代表例です。



参考:骨格から復元した港川人(1号)  
 沖縄県立博物館・美術館

旧石器時代はナウマンゾウや  
 オオツノジカなど絶滅動物が  
 いた時代。  
 氷河期時代でもある

日本列島の大部分が  
 針葉樹林=寒かった



年代が確定されたもの  
 はたったの7遺跡。  
 しかも沖縄に集中

しもじぼらどうけつ いせき く めじま  
 下地原洞穴遺跡(久米島)

しらほさおね たばらどうけつ いせき いしがきま  
 白保竿根田原洞穴遺跡(石垣島)

日本列島で旧石器人骨が  
 出土している遺跡

参考:『南の島のよくカニ食う旧石器人』(2019) 藤田祐樹著



# 野原鏡原のイヌマキ林



面積：約1ha、林齢35年、植林数3200本

野原鏡原のイヌマキ林は、文化財建造物の修繕に利用できる資材の供給地です。2017(平成29)年に文化庁により沖縄県で初めて「ふるさと文化財の森」に認定されました。イヌマキは耐久性に優れ、湿気やシロアリにも強く、昔から建築材として活用されてきました。戦前戦後の乱伐や林業の衰退によってイヌマキも減少傾向にあり、この林は文化財修復につながる貴重な資源です。



# 宮古島のシンボル

## 市木

### ガジュマル

クワ科イチジク属。  
常緑高木で熱帯雨林  
では20mもの大木に  
なる

神木や霊木として  
信仰されることも

## サシバ

## 市鳥

宮古群島は越冬のために南下する  
中継地。昔は食料として捕獲され  
ていた。環境省によって絶滅危惧  
種に選定されている

タカの仲間

春から初夏  
にかけて  
咲く

## デイゴ

## 市花木

マメ科の落葉高木。琉球漆器や  
各種工芸品にも使われる

## 市蝶

### オオゴマダラ

日本最大級の蝶。  
飛び方はゆるやかで優雅。  
サナギは金色に輝く

←サナギ

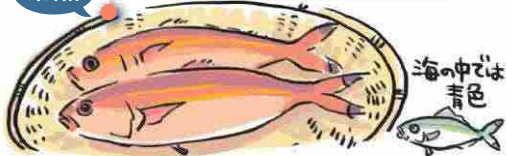
## 市花

### ブーゲンビレア

常緑のつる性植物。  
花は赤や青、黄、白  
と色彩豊か

## 市魚

### グルクン (和名: タカサゴ)



海の中では  
青色

沖縄からインド洋・西太平洋の熱帯域  
に分布する海水魚で、重要な食用魚

## 市貝

### スイジガイ (水字貝)

6本の突起が水の字に似ているため、  
魔よけや火難よけとして利用される

みや こ うま

## 宮古馬



宮古馬は、日本で8種類しかいない在来馬の一種です。体高が120cmほどで、ひづめが太くて堅く、足が強い小型馬です。毛色は鹿毛や栗毛が多く見られます。性格は大人しく、長い歴史の中で農耕や琉球競馬などに利用され、貢納馬としても王府に献上されました。

戦前戦後を通して製糖作業の大きな担い手となりましたが、機械化や交配によって数が激減し、現在は宮古馬保存会によって増殖・保存活動が行われています。



にほんざいらいば みやこうま

# 日本在来馬・宮古馬

日本在来馬とは、外来の馬種とほとんど交雑することなく残ってきた日本固有の馬の総称で、現在8種類の在来馬がいます。

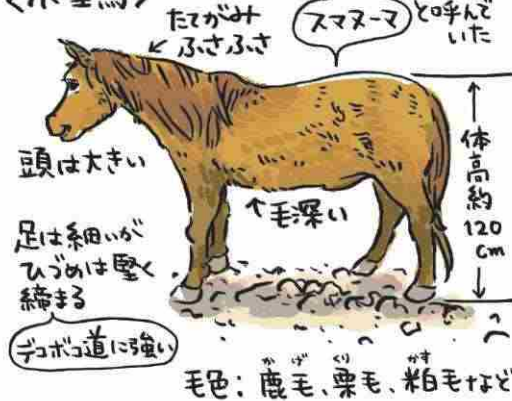


## 日本在来馬

### 宮古馬の特徴

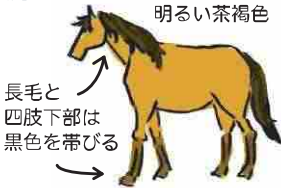
大きく耐久力がある。粗食に耐え、病気に強い

### <小型馬>



毛色: 鹿毛、栗毛、粕毛など

### かけ鹿毛



長毛と四肢下部は黒色を帯びる

被毛: 暗褐色～明るい茶褐色  
被毛: 体の表面に生えている短い毛  
長毛: 体の一部に生えている長い毛。まえがみ、たてがみ、尾など  
原毛: 基礎になっている毛

宮古住民は猛反対

### くりげ栗毛



長毛: 被毛より濃色～白色  
四肢下部の黒さはない

かすげ粕毛 原毛色に白が混じり、体が灰色っぽく見える

宮古で人気があった

### 宮古馬 かんたん歴史

たからす すしがー ぶかま ししなん	高腰城跡、尻川、外間、尻並遺跡から馬の骨・歯が出土
14～17c	琉球王朝から中国へ献上
1656	薩摩に献上
1697	馬場を設置(現在の市営馬場団地) 献上馬や御用馬の献上用に使用。そのため、農民の乗馬を禁じ、老衰しても殺さず自然死させ、皮は剥ぎ、肉は埋葬することとされた。
1916	馬匹(ばひつ)去勢法 施行 軍馬生産を目的に、在来のオス馬はすべて去勢を義務付け、国が指定する大型メス馬を交配に強要。
1922	適用除外区域として宮古馬の去勢撤廃 結果、雑種化を防いだ
1935	皇太子の乗馬用として宮内庁が購入
1940	飼育数、1万頭を超える
戦後	農業の拡大により馬の大型化が求められ、雑種化が進む。また、機械化により減少
1977	全島調査。宮古馬の純度の高い14頭を確認。保存の動きが強まる
1980	宮古馬保存会 結成
2022	飼育数49頭まで増加

## 台風銀座 宮古島

日本本土に接近する台風は、年間平均10個で、宮古には年間平均約4個の台風が通過し、「台風銀座」と呼ばれるほど台風の接近が多い地域です。

宮古では、サラ、コラ、デラ、マエミーの4つの台風が大きな災害を伴った台風として語り継がれています。

復帰前は米軍が発表する英名を使っていた

※2000年からはアジア名

発生年	1959(昭和34)	1966(昭和41)	1968(昭和43)	2003(平成15)
名称(英名※)	宮古島台風 第14号(サラ)	第二宮古島台風 第18号(コラ)	第三宮古島台風 第16号(デラ)	台風第14号 (マエミー)
最大瞬間風速	64.8m/s	85.3m/s	79.8m/s	74.1m/s
最低気圧	908.1 hPa	928.9 hPa	942.5 hPa	912.0 hPa
全壊	2,489戸	2,768戸	907戸	18戸
半壊	2,685戸	4,756戸	2,751戸	86戸
死者	7名	0名	3名	1名
重傷者	19名	4名	1名	7名
軽傷者	64名	37名	9名	89名

『沖縄県災害誌』(1977)、『平成15年台風14号災害記録誌』(2005)、宮古島気象台

### サラ台風(1959.9.12)

当時は茅葺や木造が主流だったため、島の7割以上にあたる住宅が被害に遭い、多くの犠牲者が出ました。

この台風は、当時の沖縄管内観測史上最低の気圧を記録しています。

### 川崎駅に石敢當！？

神奈川県川崎市は、沖縄からの出稼ぎ者が多く日頃から交流があったことから、サラ台風の被害に対し、約1万ドル(約360万円)の義援金が届けられ

ました。その返礼として当時の琉球政府から石敢當5基が寄贈され、そのうちの1基が川崎駅前に交通安全を祈願し、設置されています。

石敢當は丁字路に置かれ、悪いことが起こるのをふせいだり、魔物がやってくるのをふせぐといわれています。

宮古島産のトラパーチンが使われている



川崎駅東口にある石敢當

## コラ台風(1966.9.5)

この台風で記録した最大瞬間風速85.3m/sは、日本の平地での気象観測史上1位です。長時間にわたる暴風雨によって島外との通信が途絶え、一時孤立状態になりました。島の半数以上の住宅が損壊、豊作を予想されたサトウキビの7割以上が収穫不能になるなど、甚大な被害が発生。宮古で初めて災害救助法が適用されました。

### 日本産業開発青年隊

#### 第二宮古島台風災害救援記念碑

コラ台風の被害に対し、建設省(現国土交通省)から派遣された日本産業開発青年隊32人が来島し、約1か月に渡って応急仮設住宅20棟の建築や損壊した施設の撤去、修復などにあたりました。宮古島市熱帯植物園の敷地内に記念碑が建立されています。



熱帯植物園内の石碑

## デラ台風(1968.9.23)

コラ台風被害の2年後だったため、家屋が全壊して仮設住宅に住んでいた

約300世帯(1,800名)も再び被災、災害救助法も再度適用されました。この時代の台風被害を契機に、建物が台風に強いブロック造・コンクリート造に変わっていきました。

## マエミー(2003.9.11)

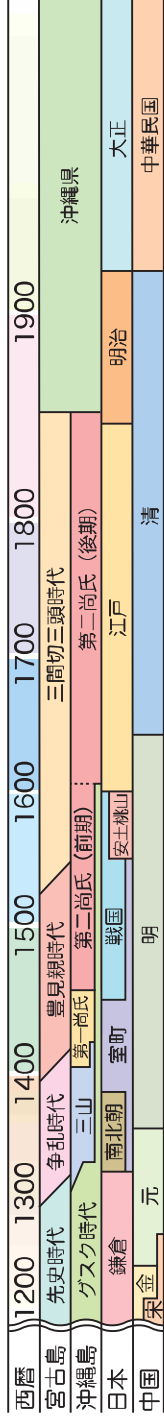
この台風で約1,900本の電柱が倒壊し、島内ほぼ全世帯が停電しました。コンクリート造の建物が多かったことから倒壊数は激減したものの、ガラスが割れるなどで発生した屋内の被害は少なくありませんでした。



城辺町の電柱被害  
写真:琉球新報社







## 宮古の人物年表

みやこ じんぶつねんぴょう

名前(生没年)・事象/関連キーワード・史跡  
 — 夫婦  
 …… 子、兄弟姉妹、親族、子孫  
 — 養育、養子  
 書籍(発行年)

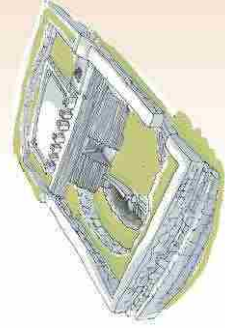
宮古八重山両島絵図帳(1647)  
 御嶽由来記(1705)  
 雍正旧記(1727)  
 宮古島記事仕次(1748)  
 宮古島記事(1752)  
 宮古島在番記(1780)

宮古史伝(1927)  
 宮古島庶民史(1957)

保里太夫/保里御嶽  
 保古利屋盛 …… 系数大按司  
 居士佐加利  
 …… 真徳金(飛鳥爺)/飛鳥御嶽  
 起目竊殿  
 思千代按司/石原城  
 西銘こぜさかり  
 …… 於母婦  
 目媛月  
 思目媛

茂煇太郎(西銘嘉播親)  
 /西銘御嶽  
 長井の里の真直  
 …… 根間角嘉波良太夫氏/外間御嶽

根間大按司  
 …… 目黒盛豊見親/漲水御嶽、犬井、東原御嶽  
 真譽の子  
 …… 仲宗根豊見親(1457~1523)/仲宗根豊見親墓、漲水御嶽の石垣、中導氏仲宗根家の庭園



根間大親  
 …… 知利真良豊見親/知利真良豊見親墓  
 …… 仲屋金盛豊見親(~/1532)/仲屋金盛ミヤーカ  
 …… 真保那瑛/仲屋まぶなり御嶽  
 佐多大入/与那覇ばらの一団、支石墓  
 与那覇勢頭豊見親/ニーマトゥクルザー、与那覇勢頭豊見親沖繩島発見出発之地碑  
 …… 泰川大殿  
 …… 大立大殿/大立大殿みやーか  
 久知名按司/クジナ御嶽、ミズヌマ遺跡

仲宗根豊見親墓

大嶽按司/大嶽城跡

ビギタリ/大御嶽  
知呂按司/中御嶽  
金丸金按司/西御嶽

川満大殿(1458～没年不明)/川満大殿の古臺、河充家の系図

四島の主/四島の主の墓  
オヤケ赤蜂征討(1500)

金志川金盛(～1522)/金志川泉、金志川御嶽、金志川豊見親屋敷跡

稲石刀自(1545～没年不明)/綾錆布、宮古上布、貞屋御嶽、産業界恩人の碑

砂川親雲上旨屋(1591～1667)/芋の主御嶽、産業界恩人の碑

下地親雲上恵根(1626～1703)/大野山林、産業界恩人の碑

友寄親雲上/馬場

島津の琉球侵略(1609)

人頭税制施行(1637)

恩河里之子親雲上(～1874)/墓碑

プロートン(1762～1821)/プロビデンス号

乾隆三十六年大波(1771)

クバラバアズ/狩俣集落

大城殿/アーヌカー、クスヌカー

大浦多志按司/大浦多志城跡

喜佐真按司/喜佐間御嶽 — さあね/ナーパイ

久場嘉按司/クバカ城

!... 普門好善/好善ミガガマ御嶽

テマカ按司/テマカ城跡

采間大殿/スムリヤーミヤーカ

赤良友金/比屋地御嶽

豊見氏朝/古文書・典籍及び刀剣



綾錆布



クイチャー



1300

1400

1500

1600

1700

1800

1900

本村朝祥(1803～1876)/本村家「報本」碑

ロベルトソン号座礁(1873)/ドイツ商船遭難

之碑、ドイツ皇帝博愛記念碑

国仲寛徒(1873～1929)/五ヶ里開削記念碑

麻溝温泉(1879)

城間正安(1860～1944)/人頭税廃止運動

中村十作(1867～1943)/人頭税廃止運動

川満亀吉(1864～1928)/人頭税廃止運動

人頭税制廃止(1903)

端麗賢朝牛(1885～1945)/瑞福隧道

慶世村恒任(1891～1929)/宮古史伝

稲村賢敷(1894～1978)/宮古島庶民史

ぶんかざい たいげいず  
**文化財の体系図**

しゅるい  
文化財の種類

なち ねか  
特に価値の高いもの

とく じゅうぶ  
特に重要なもの

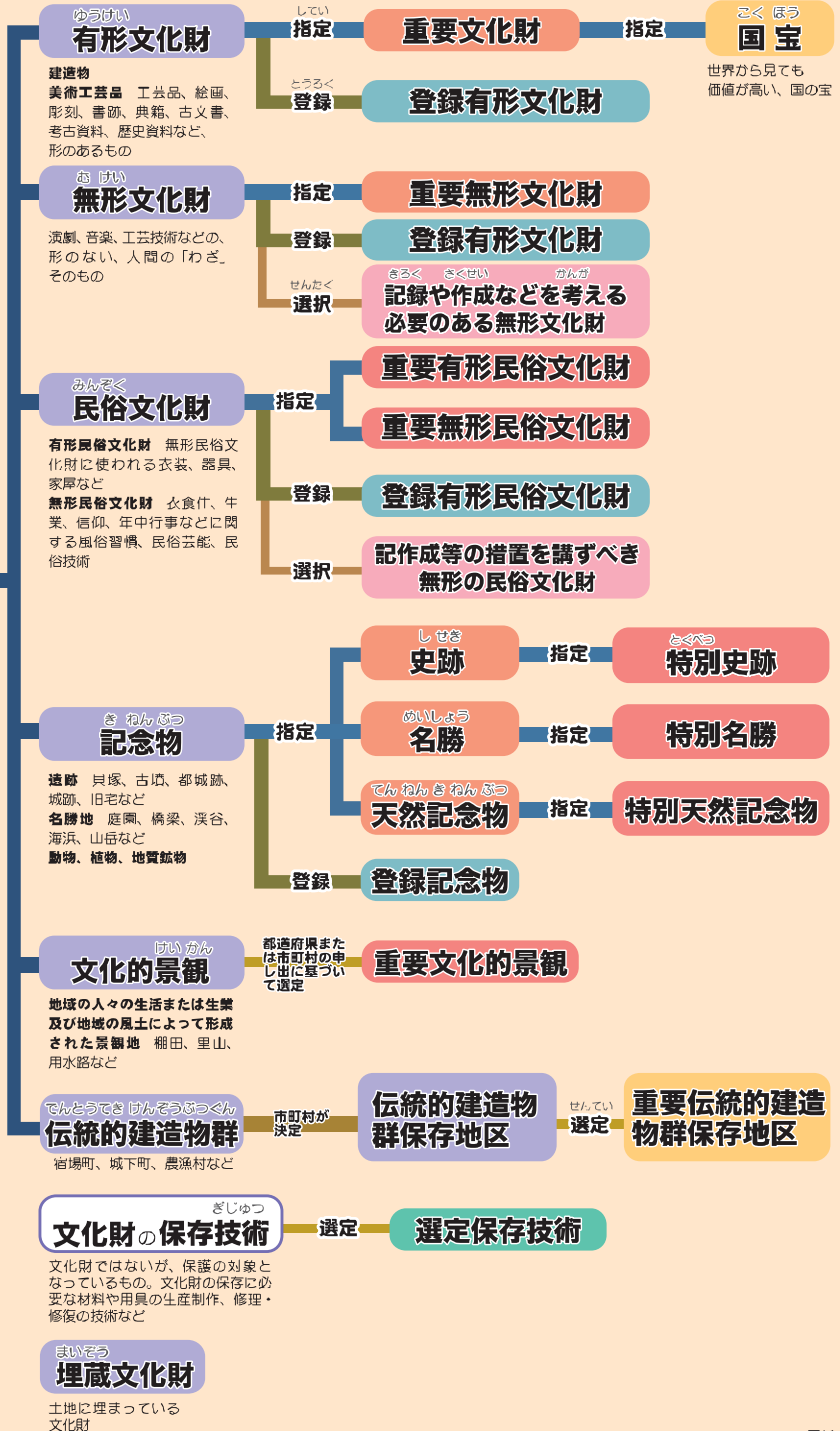
じゅうぶ  
重要なもの

**文化財**

じゅうぶ  
特に必要のあるもの

ほそん かっよう  
保存と活用が特に必要なもの

保存できるよう考える必要のあるもの





それぞれの文化財の一例

※宮古市や、沖縄県、九州にある文化財の一例

有形文化財

かたち  
形のあるもの

形のないもの

無形文化財

重要文化財



豊見親墓③墓  
(とうゆみあやばなさき)

国宝



治金丸 / 沖縄県  
(じがねまる / おきなわけん)

登録有形文化財



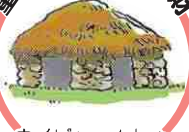
旧西中共同製糖場煙突  
(きゅうにしななかきようどう  
せいとうじょうえんとつ)

重要無形文化財



宮古上布  
(みやこじょうふ)

重要有形民俗文化財



ウイビヤームトゥウの祭場  
(さいじょう)

民俗文化財

生活に関係した  
もの

重要無形民俗文化財



宮古島のパーンドウ

登録有形民俗文化財



竹富島の生活用具 842 点 / 沖縄県 竹富島  
(たけとみ島のせいけつようぐ / たけとみじま)

文化財

記念物

指定



史跡 (歴史上の名所)

遠見番所  
(とあみばんしよ)



特別史跡

吉野ヶ里遺跡 / 佐賀県  
(よしのがりのいせき / さがけん)

登録

登録記念物



旧仲宗根氏庭園  
(きゅうなかそねしーていえん)

名勝



東平安名崎  
(ひがしへんなざき)

特別名勝



識名園 / 沖縄県  
(しきなえん)

景色の  
よいところ

人間と自然が  
作ってきた景色

文化的景観

指定



別府の湯けむり・温泉地 / 大分県  
(べつふのゆけむり / おおいたけん)

伝統的建造物群保存地区

指定



竹富島の農村集落 / 沖縄県 竹富島  
(たけとみじまののうそんしゅうらく)

伝統的建造物群

生きてきた  
歴史的なまち  
なみや景色

天然記念物



オカヤドカリ

特別天然記念物



イリオモテヤマネコ

貴重な自然を  
記念するもの

選定保存技術



宇麻糸手績み  
(ちまいとてうみ)

文化財の  
保存に  
大事な技術

埋蔵文化財



住屋遺跡  
(すみやいせき)

埋まっ  
ているもの

わたし ぶん か ざい  
**私たちの文化財です**  
たい せつ  
**大切にしましょう**

ぶん か ざい きょ か む だん げんじょうへんこう  
文化財を許可なく無断で現状変更する  
ことは法律で禁止されています。  
ほうりつ きん し



教育委員会  
公認アプリ

このアプリケーションは、GPS機能を利用したコース案内が可能のほか、現地で文化財の説明などを閲覧することができます(ダウンロードをしておけば、ネット環境が不十分な場所でも文化財の閲覧が可能です)。

ポータルサイト



宮古島市neo歴史文化ロード **綾道(下地南・上野野原コース)**

発行

2022(令和4)年3月

編集・発行

宮古島市教育委員会

〒906-8501 沖縄県宮古島市平良字西里1140番地

TEL 0980-72-3764 FAX 0980-73-1976

イラスト・デザイン 山田 光

令和3年度宮古島市neo歴史文化ロード整備事業